

(別添1)

調査研究報告書のサマリーについて

調査研究報告書のサマリーについては、以下の様式により作成すること。

令和5年度老人保健健康増進等事業

<介護福祉士のキャリアアップにおける職場環境等の影響に関する調査研究事業>

<株式会社日本能率協会総合研究所>

(目的)

本調査研究事業においては、「介護福祉士のキャリアモデル（山脈型）」に基づく、介護福祉士のキャリアアップを支援する、施設・事業所の環境整備の職場環境の在り方について検討を行った。

(主な実施内容)

- ・ 検討委員会の設置
- ・ アンケート調査の実施（①介護福祉士調査、②介護施設・事業所調査）
- ・ 職場環境整備のためのヒアリングの実施

(成果)

介護人材が不足している中、すそ野を広げると共に資格を持たない介護従事者が介護福祉士を目指すことができるように支援することが求められている。なお、人材確保については、今後、地域で人材を育て・確保するという視点も必要ではないかとの意見が委員から挙げられた。わが国が直面している課題解決に向けて、重要な指摘である。本調査研究事業において、令和4年度の山脈型キャリアモデルをバージョンアップさせ、介護人材の全体像の中に介護福祉士を位置づけることで、資格を持たない介護従事者の目指す方向を示すとともに、富士山型の一本道のキャリアパスではなく、介護福祉士のキャリア形成において、多様なキャリアパスがあることを示し、一人一人の志向に応じて、目指せる山があることを示したものである。この山脈型は既に数多くのロールモデルが存在しており、介護福祉士の実際である。

今後のキャリアパスの考え方として、社会的報酬やそれにより事業所が収入を得られれば金銭的報酬に繋がられる可能性もある。いずれにせよ、マネジメント以外に、専門的な能力に注目して評価しているところもあることから、そのような評価が今後広がることを期待したい。

各施設・事業所においては、今後、一人一人の状況を踏まえた、キャリアアップ・キャリア支援を一層推進することが求められているが、どのようなキャリアを目指すのか、そのためにはどのような支援が必要かといった相談（検討）するキャリア面談の場等で、山脈型キャリアモデルは支援者と被支援者（介護福祉士）の介護福祉士のキャリアの共通認識・理解を促すものとなる。

なお、目指すキャリアモデルにたどりつき、登っていくための研修（例）も示しているので活用いただきたい。多くの介護福祉士が、自らのキャリアを考え、そして自分にあつた山を見つけ、それに向かって介護福祉士としてのキャリア積んでいただけることを期待している。